

令和4年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 滋賀県

農業委員会名： 草津市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和4年4月1日現在)

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和2年7月20日

任期満了年月日 令和5年7月19日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	14	14
認定農業者	—	9
認定農業者に準ずる者	—	1
女性	—	2
40代以下	—	2
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	10	10	10

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	995
農業経営体数	606

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	1,636
女性	707
40代以下	433

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	61
基本構想水準到達者	2
認定新規就農者	2
農業参入法人	0
集落営農経営	2
特定農業団体	0
集落営農組織	2

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	1,110	79	—	—	—	1,190

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

II 最適化活動の目標

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)/(A)
	1,190 ha	697.05 ha	58.6 %
課題	少子高齢化や農業者の減少により、耕作することができない圃場が増加することが懸念される。農業の担い手の確保や後継者の育成をすることが急務である。 また、担い手農家が受託する農地の効率的な配置により、経営効率の向上が図られることから、農地の保全対策と合わせて農作業受託組織の育成・支援を図る必要がある。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	令和14年度	集積率	75 %
今年度の新規集積面積	32.2 ha	農地面積(C)	1,190 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	711.25 ha	(目標)今年度末の集積率(E)=(D)/(C)	60.0 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

(2) 遊休農地の解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	8.6 ha	7.2 ha	1.4 ha
課題	農業者の減少や高齢化が進み、草刈り等の管理のみとなっているケースが増えている。 また、誰かに耕作してもらおうと考えている方や、管理ができないことから耕作できる人に売りたいという方もおられるが、土地の形状や場所等によっては受け手がない状況である。		

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	7.2 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	1.44 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	1.4 ha
--------------------------	--------

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	非農地判断をすることも視野に入れながら、関係機関と協議していく。
-------------------------	----------------------------------

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	0.4 ha
---------------------------	--------

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	31年度新規参入者	2年度新規参入者	3年度新規参入者
	1 経営体 0.3 ha	0 経営体 0 ha	0 経営体 0 ha
課題	多様な担い手による農業への新規参入と農地の有効な確保のため、市、JA、県等が十分な相互連携を図る必要がある。 農地のあっせんについて、農業委員、最適化推進委員が地域との調整を図る必要がある。		

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

権利移動面積	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平均
	18.39 ha	14.94 ha	14.85 ha	16.06 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積			16.00 ha	

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	6 日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	13 人
		農地利用最適化推進委員の人数	10 人

(2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数	3 回	
取組時期	取組項目	強化月間の内容
10月	遊休農地の解消	農地パトロール及び遊休農地解消に向けた指導
12月	農地集積・集約	地域の会合等に参加し、集積・集約について、今後の話し合いを行う。
2月	新規参入の促進	新規参入のセミナー等に積極的に参加する。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数	2 回		
開催時期	11月	相談会名	女性のためのアグリセミナー
参加者数	未定	開催場所	未定
相談会の内容	農業分野で活躍する女性のセミナー、意見交換会		
開催時期	2月	相談会名	しがの農林水産業で働く！就業相談フェア
参加者数	未定	開催場所	未定
相談会の内容	就農相談会		

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)